

訂正とお詫び

前号 2006 年 7 月号 (38 巻 2 号) 4 ページ, 「山川健次郎元東京大学総長の胸像などの寄贈を受ける」記事内の写真 2 点のキャプションに「三木氏」と書かれているのは, 「福田坦子 (ひろこ) 氏」の誤りでした。訂正とともにお詫び申し上げます。

あ と が き

転出された先生から引き継いで再度, 広報誌編集委員になって初めてこの号を担当することになりました。たいへんな仕事を仰せつかったと思っておりましたが, 牧島広報誌編集委員長の強力なリーダーシップと, お忙しい中ご執筆の労をお取りいただき, 締め切りに対応していただいた先生方, そして庶務係のご担当の皆さんの迅速な編集によって, 私の出番はほとんどありませんでした。

さて, 今号は, いまや東京大学のメインイベントのひとつとなりつつあるオープンキャンパスや, 本研究科での教育プログラム, 若手研究者のシンポジウムなど若い人の特集号になりました。こうしたイベントを見ていると, 高校生諸君や本学の学生・院生, 若手教員のサイエンスへの情熱を強く感じます。とくに, 高校生諸君のサイエンスへの興味の深さと知識獲得への貪欲さは, 「理科離れ」という単語がこの世の

ものとは感じられないほどのものですし, 自分を振りかえっても学ぶべき点があると感じました。そういえば, 理科系の科目の国際的な高校生オリンピックなどでの日本の高校生の活躍は毎年の出来事になってきています。しかし, 新聞などを読んでいますと, いっぽうでは科学技術が進むほど, 日本だけではなく世界の各国で, 子どもの理科離れが進んでいるというのはやはり深刻な問題なようです。「デジタルデバイド」という言葉がありますが, 科学知識全般にもそういった「デバイド」が今後大きな問題となってくるのかもしれない。

大学の使命は, 研究でのリーダーシップと, 国の発展を担う人たちの養成, さらに, 次世代を担う子どもたちへゆめと希望を与えるための啓蒙と多岐にわたっています。本研究科とこの広報誌の役割はきわめて重大になっているのだと, 今回の編集で再確認させられました。

米澤 徹 (化学専攻 助教授)

第 38 巻 3 号

発行日: 2006 年 9 月 20 日

発行: 東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

編集: 理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会

牧島 一夫 (物理学専攻) maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

横山 央明 (地球惑星科学専攻) yokoyama.t@eps.s.u-tokyo.ac.jp

上田 貴志 (生物科学専攻) tueda@biol.s.u-tokyo.ac.jp

米澤 徹 (化学専攻) yonezawa@chem.s.u-tokyo.ac.jp

渡辺 正昭 (庶務係) mwatanabe@adm.s.u-tokyo.ac.jp

加藤 千恵 (庶務係) c-kato@adm.s.u-tokyo.ac.jp

勝見 順恵 (庶務係) katsumi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

e-mail: kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP 担当:

名取 伸 (ネットワーク) natori@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン:

大島 智 (ネットワーク) satoshi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

印刷: 三鈴印刷株式会社